



農業はじめました！

～新規就農者の取組紹介～



令和4年1月
東北農政局青森県拠点

我が国において、高齢化・人口減少が本格化する中で、農業者の減少や耕作放棄地の拡大がさらに加速していくことが懸念されています。このような状況下で農業を持続可能なものにしていくためには、新規就農者の確保、育成が極めて重要であり、若者等の農業への一層の呼び込みと定着を図るため、農業の魅力発信が必要となります。

このため、東北農政局青森県拠点では、令和2年度に引き続き、県内各地で活躍されている若手農業者の方や青森県に新たに就農の場を求め移住された方、有機農業に取り組む若手農業者の方にスポットをあて、「農業はじめました！～新規就農者の取組紹介～」を作成いたしました。本事例集では、県内各地で活躍し、地域の農業を担う若い力の取組を紹介するとともに、就農する際の想いや課題など貴重なご意見をいただき取りまとめています。更には、これから農業にチャレンジする方へのメッセージもいただいておりますので、就農を考えられている皆様の参考となり、農業のさらなる発展の一助となれば幸いです。

令和4年1月
東北農政局青森県拠点
地方参事官 木村 勝彦

【留意事項】

- 掲載情報は取材時点のものです。
- 紹介している取組は、関係者の皆様のご了解をいただき掲載しています。
- 無断転載は禁止しています。

目 次

- 力石 悠子さん、力石 知子さん（十和田市） 1
「今より若い日はない！西洋野菜で姉妹就農」
- 永井 温子さん（弘前市） 2
「りんご農家の未来はもっとカジュアルに」
- 吉田 匡宏さん（弘前市） 3
「出きった杭は打たれない！こだわりの黒にんにくで成功モデルへ」
- 齋藤 香織さん（つがる市） 4
「つがる市は私が輝ける場所」
- 小山田 剛士さん（十和田市） 5
「40代からの新たな挑戦！地産地消で地域貢献を！」
- 田邊 真太郎さん（平内町） 6
「将来は法人化して地域の農地を引き受けることが目標」
- 久保 佑樹さん、久保 綾香さん（十和田市） 7
「豊かな土や水で育てたお野菜を私たちがお届けします！」
- 増山 由理さん（十和田市） 8
「地域の方々の助けがあってこそその就農」

目 次

- 吉本 寛之さん（六戸町） 9
「土作りにこだわったにんにく栽培」
- 山田 俊さん（鶴田町） 10
「会社員→地域おこし協力隊→ぶどう農家デビュー」
- 中嶋 大樹さん（大鰐町） 11
「地の利を活かした経営戦略で、ロットをまとめて安定した販路の確保」
- 相内 智明さん（五戸町） 12
「野菜の成長が元気のもと」
- 上沢 洋貴さん（田子町） 13
「農業の可能性は無限大新たな販路に向けて 有機栽培にも挑戦」
- 佐藤 岳広さん、佐藤 美穂子さん（五戸町） . . . 14
「町に活気を取り戻そう！就農しながら地域づくり」
- 小田島 亜矢子さん（青森市） 15
「夢は畑がスーパーマーケット」
- 斉宮 大さん、斉宮 知佳さん（弘前市） 16
「自分に見合ったプランで就農準備」 R4 .就農予定

今より若い日はない！西洋野菜で姉妹就農

新規参入 就農2年目



(妹) 力石悠子さん、(姉) 力石知子さん
(十和田市)

就農のきっかけ

(妹) 23歳のとき、働き方を自己裁量でデザインできる農業に挑戦してみたいと思いました。「先ずは5年頑張っ、失敗しても20代ならまだやり直せる！」と考え、姉に「私、農業を始める！」と宣言したのが始まりです。

(姉) 妹から就農宣言を受けた当時、私は30歳という節目の年でした。幼い頃から父の農作業姿を見ており、農業は身近なものでもあったので、一緒に農業を始めてみようかと決断し、お互いの気持ちを確認した上で就農に挑戦しました。

〇就農にあたっての課題

親は米農家なので野菜栽培に必要な機械や土地がありませんでした。土地は親の知り合いから借り、機械は融資で購入しました。西洋野菜の栽培に必要な園芸施設(ビニールハウス)は、「新規就農者農業機械等導入支援事業」を受け、新設しました。

〇活用した就農支援策等

- ・農業次世代人材投資資金(準備型) 姉妹で活用
- ・農業次世代人材投資資金(開始型) 妹のみ活用
- ・新規就農者農業機械等導入支援事業(十和田市単独事業)

自己紹介

- 〇氏名…力石 知子さん(32歳)
力石 悠子さん(26歳)
- 〇出身地…青森県十和田市
- 〇経営の概要…個人経営
 - ・経営面積…(姉) 50a (妹) 1.5ha
(※うち、ビニールハウスは2a)
 - ・作付品目…(姉) 西洋野菜、赤カブ
(妹) 西洋野菜、カボチャ、にんにく
 - ・販売先…道の駅とわだ「とわだびあ」、
ファーマーズマルシェひとつぶ、
365STANDARD CAFE等

就農してからの課題や想い

〇取り組み

西洋野菜を作り続けて20年を誇る「ふじもり農園(十和田市)」での研修がきっかけで、姉妹ともに西洋野菜をメインに栽培しています。

西洋野菜は大型の農業機械を要しないので経費が抑えられ、始めやすい品目でした。また、ふじもり農園から栽培に関するサポートや販路の紹介があったことも後押しとなりました。

〇就農してからの課題

昨年は、カボチャとにんにくが予定した程には収穫できませんでした。しばらく耕作していない水田に植付けたため土壌環境が悪く、加えて天候不順だったことが重なったことが要因だと考えられます。

また、西洋野菜の種子は、種苗店に問い合わせても取り扱いがない事が多いので、種子の入手方法を安定させることが課題です。

〇課題の解決方法

今年はかぼちゃにワラを敷き、地面に苗を固定させることで、雨風に強くし、食害やカビを防ぐ工夫をします。

種子の入手については、研修先から教えていただいたり、西洋野菜を扱っている種苗店を尋ねたりして購入しています。

就農を考えている方へのメッセージ

就農する前、周りの方から「農業は難しい」と言われましたが、あまり難しく考えず、諦めず、先ずは挑戦してみることが大事だと思います。そのためには、何年か先の目標を立て、達成の為に何をすべきなのかを見える化することと、アドバイスやサポートをしてくれる師匠を見つけることが大切だと思います。



【パースニップ】

力強い白い根はニンジンに似た香気があり、とても甘いのが特徴。



【タルディーボ】

トレビスやチコリの仲間。あえて栽培が難しく手間が掛かる品目に挑戦！

りんご農家の未来はもっとカジュアルに

新規参入 就農2年目



永井 温子さん (弘前市)

就農のきっかけ

弘前大学を卒業後、関東の企業に就職しましたが、東北に戻ることは既に卒業時に決めていました。

弘前市にとって最も重要な課題に関わりたいと考え、「ひろさきローカルベンチャー育成事業」※の中から「りんごの未来への小さな一歩プロジェクト」に参画しました。後継者のいないりんご農家と新規就農者とのマッチングの仕組みづくりを目的に活動する中で、就農について色んな方々から話を聞き、自ら調べていくうちにターンやUターンで就農する場合、様々なハードル（農地確保、資金確保、営農技術等）があることに気づきました。プロジェクト参画当初、自ら就農する予定はなかったのですが、実際に就農経験を通して新規就農者が直面するハードルについて詳しく知ること、多様な人材がりんご産業に関わる環境を作りたいと思い就農しました。

〇就農にあたっての課題

園地を購入をする条件を決めるため、園主と1年間話し合いを重ねました。

また、「りんご農家はこうあるべき」という固定概念に対し、もっと自由な考え方でりんご栽培を始められないかと思い、りんご農家に挑戦しました。

〇活用した支援事業等

・ひろさきローカルベンチャー育成事業※1
※地方での起業を育成するため、地域おこし協力隊制度（総務省）を活用して、移住・起業の受入れ組織拠点であるNCL弘前において地域資源を活用した様々な起業プロジェクトに取り組んでいる。

【千雪（ちゆき）のりんごジュース】

「切っても茶色くならない」千雪の特徴を存分に活かした永井さんこだわりのりんごジュース。HIROSAKI ORANDO、自社ECサイト、虹のマーケットで販売中！

商品紹介URL：

<https://pathways-within-apple.jimdofree.com/>



自己紹介

- 氏名…永井 温子さん (30歳)
- 出身地…福島県郡山市
- 経営の概要…会社経営 ((株)Ridun)
従事者1名
- ・経営面積… 2.4ha
(個人40a、会社2ha)
- ・栽培品目…りんご (ふじ、千雪等)
- ・販売先…生果→弘果(市場)、
りんごジュース等の加工品→虹のマーケット、
HIROSAKI ORANDO、自社ECサイト等

就農してからの課題や想い

〇取り組み

現在、生産した生食用りんごは卸売市場に9割出荷。冷蔵倉庫が無いので、収穫後に随時出荷しています。残りの1割はジュースやジェラート、ピューレに加工委託。りんごは収穫時期によって品種が変わるので、今後は、旬に合わせたジュースに加工して特色を出したいと考えています。

〇就農してからの課題

今後、高齢のためリタイヤするりんご農家が増え、私のような若手に「りんご園を引き受けて欲しい」と声がかかると思いますが、一方、自身も人手が足りないためアルバイトを雇ったり、仲間から手伝ってもらい何とか栽培している状況なので、デリケートなりんごの木に病気を蔓延させない効率的な栽培管理を模索中です。

〇課題の解決方法

2021/8/2に会社を設立しました。今後、りんご栽培だけでなく、農業機械等の貸し借り、りんごの販売等を行える会社にしていきます。また、当園のアルバイトを人手不足の園地に派遣する協力体制を整えたいと考えています。

就農を考えている方へのメッセージ

私は就農当初、周りの先輩農家さんに「栽培技術がないとりんご農家を続けていくのは厳しい」と言われ続けてきました。実際に農業を続けていく中で、畑のことを相談できる師匠のような存在がいることが大事だと思っています。また、りんご栽培は、最初のうちは必要な作業を最低限でできれば良いと思っています。

出きた杭は打たれない！ こだわりの黒にんにくで成功モデルへ

新規参入 就農2年目



吉田 匡宏さん（弘前市）

就農のきっかけ

所属する「ひろさきローカルベンチャー育成事業」※の地域おこし協力隊（起業型）の中で、キャリアクリエーターとして起業にチャレンジする若者をサポートをしています。これまで学生や若者から相談を受ける中で、就農に関する相談が多く、実際に自分自身で農業をやってみないと教えられないと思い就農しました。

○就農にあたっての課題

農業を始めるに当たって、農地を所有していなかったのですが、知り合いに紹介してもらい、農地を取得することができました。

○活用した支援事業等

・ひろさきローカルベンチャー育成事業※
※地方での起業を育成するため、地域おこし協力隊制度（総務省）を活用して、移住・起業の受入れ組織拠点であるNCL弘前において地域資源を活用した様々な起業プロジェクトに取り組んでいる。

自己紹介

- 氏名…吉田 匡宏さん（36歳）
- 出身地…青森県弘前市
- 経営の概要…会社経営（株ホーデック）
従事者4名
- ・経営面積…2 ha
- ・作付品目…にんにく
- ・販売先…黒にんにく、黒にんにくペースト等
→食べチョコ、ポケットマルシェ、HIROSAKI ORANDO等

就農してからの課題や想い

○取り組み

農薬・化学肥料を一切使わない栽培にこだわり、「健康食品」として高付加価値を付けた黒にんにく販売に取り組んでいます。

青森県の農業で儲かる姿を成功例で若い世代に伝えたいと考えています。

○就農してからの課題

黒にんにく加工をはじめたときは、原料の黒にんにくを購入して加工に取り組みました。その際に非常に甘くておいしい黒にんにくが完成したので、同じにんにくの種を植えたいと思い取り寄せました。しかし、12月の仕入れとなったため、慌てて雪を掘り起こして植えましたが失敗しました。失敗を繰り返さないように今年は計画的に栽培しています。

○課題の解決方法

現在ECサイトを構築中で、こだわりの黒にんにくを売り出したいと考えています。

既に残留農薬検査や水質調査、ASIAGAP認証制度、HACCP認証にも取り組んでおり、今後は有機JASマーク取得にもチャレンジする予定です。広告費用をかけ「青森にんにく」のブランドをうまく活用し販売することが大事だと考えています。



【こだわりの生黒にんにく】と【黒にんにくスティック】

美味しく、毎日続けられる健康」をテーマに開発。黒にんにくスティックは無添加にこだわり、自社の生黒にんにく、国内老舗ブランドのはちみつ、トクホのオリゴ糖、この厳選された3つの素材のみを贅沢にブレンドしている。

商品紹介URL：<https://kaguyafarm.theshop.jp/>

就農を考えている方へのメッセージ

地域の農家さんと日頃からコミュニケーションをとることが大切だと思っています。インターネット検索で栽培方法を調べることはできますが、細かい技術や農法は、現場の農家さんに教えてもらわないと上手いことがありません。また、「出る杭は打たれる」が、「出きた杭は打たれない」と思っているので、売り上げ目標を高く設定して取り組むことを心がけています。

つがる市は私が輝ける場所

新規参入 就農3年目



齋藤 香織さん（つがる市）

就農のきっかけ

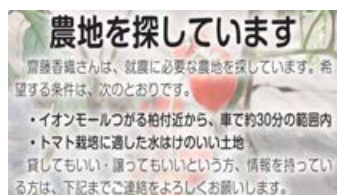
私は農業高校出身で、学生の頃農業は好きでしたが、生業にしたいというところまで考えはありませんでした。しかし、子どもが生まれて安心出来る食材を食べさせたいという想いが募り、夫の理解と協力を得て就農しました。

○就農にあたっての課題

農地の確保が最初の苦労です。苦心する中、つがる市の広報に「農地を探しています」と掲載してもらい、なんとか農地を確保することが出来ました。つがる市の広報に掲載してもらえなければ農地の確保もままならなかったと思います。就農するにあたり、自己資金を準備した上で、融資と補助金を併用し、農業を始めました。

○活用した就農支援策等

- ・農業次世代人材投資資金（準備型と開始型）
- ・就農準備支援金：準備期間中1回限り（つがる市単独事業）
- ・研修支援金：2年間（つがる市単独事業）



【つがる市 広報誌 抜粋】
つがる市 広報に、齋藤さんが探している農地条件が掲載。
※行政機関のサポート体制により農地確保が可能となりました。

【齋藤さんが育てたミニトマト】
就農3年目のミニトマト。
JAにコンテナでバラ出荷しています。
撮影日2021.09.27



自己紹介

- 氏名・・・齋藤 香織さん（33歳）
- 出身地・・・青森県五所川原市
- 経営の概要・・・個人経営 従事者2名
 - ・経営面積・・・借受農地50a ハウス2棟（1棟：100坪）
- ・作付け品目・・・大玉トマト、ミニトマト、ハウレンソウ（冬季限定）
- ・販売先・・・主にJA出荷、一部、つがる市農産物直売所

就農してからの課題や想い

○取り組み

つがる市に移住し「新規就農者支援事業」の研修生第1号として修了し、夏季は大玉トマト、ミニトマト、冬季はハウレンソウを栽培しています。

○就農してからの課題

2年間の研修を経て、自ら栽培を始めてみると「これってなんだろう？」という場面が何度もあり、実際に研修で教えてもらっていても習得できていない部分が多々あると感じました。

最初の頃は大玉トマトの収穫時期がよく分かりませんでした。「ちょっとお尻が赤くなったくらいで収穫してください。」と言われても、まだトマトは青いし、本当に収穫して良いのかという迷いがありました。そうこうしているうちに絶好の収穫時期を逸してしまうなど、タイミングを覚えることに苦労しました。

○課題の解決方法

就農初年はトマトに青虫が発生し、収量が減ってしまいました。そこで2年目は防虫ネットを導入し、なんとかうまく栽培することができました。困った時は研修先の指導員や農協の担当者の方に電話をして教えてもらっています。

今後はハウスを2棟から3棟に増やし、地域の方や障がい者・高齢の方々の雇用をしたいと考えています。また、将来、子ども達を対象に収穫体験などが出来たら良いと考えています。今は栽培に集中していますが、今後、トマトの加工品にもチャレンジしてみたいです。

就農を考えている方へのメッセージ

初年度に「つがる市就農研修生受入協議会」の色々な作物を作っている生産者の所へ行って話を聞いたことで人とのつながりを持てました。困ったときに相談できる方がいることが、一番の安心材料だと思っています。人とのつながりを大事にして欲しいです。

40代からの新たな挑戦！ 地産地消で地域貢献を！



小山田 剛士さん（十和田市）

就農のきっかけ

最初は趣味で家庭菜園を行っていたのですが、農業の面白みを感じて就農を決意！前職の税務関係の仕事では様々な職業の方と知り合う機会があり、農家の方とも知り合いになりました。農業は税制面で優遇されてきており、新規就農者に対する支援措置についても充実していることから、「起業したい」という想いを実現するため、就農に挑戦しました。

○就農にあたっての課題

栽培品目を模索していく中で水耕栽培を見つけましたが、新規就農者で水耕栽培の前例がないので、就農計画等でアドバイスをいただく際に役所の方の頭を悩ませてしまいました。それでも「水耕栽培にチャレンジしたい」という強い想いを抱え、秋田県三種町の「株式会社里山村」に足を運び、約2週間水耕栽培の研修を行いました。

○活用した就農支援策等

- ・農業次世代人材投資事業の開始型（2年目）
- ・令和2年度十和田市新規就農者農業用機械等導入支援事業（市単独事業）

就農を考えている方へメッセージ

事業開始前に販売ルートを開拓した方が良いと思います。自分は、研修先の商品を飲食店に持って行き、「これと同じものを作るから扱って欲しい」と営業をして販売先を開拓しました。水耕栽培はそんなに難しいことはなく、決められた栽培法に従って管理していれば野菜は育ちます。虫や病気の対応ができれば、農業未経験者でも始めることができると思います。

新規参入 就農2年目

自己紹介

- 氏名・・・小山田 剛士さん（45歳）
- 出身地・・・青森県十和田市
- 経営の概要・・・個人経営 従事者3名
- ・経営面積・・・ハウス3棟（1棟:40坪）、畑40a（にんにく、そば）
- ・作付品目・・・水耕レタス類、サンチュ、ハーブ等、にんにく、そば
- ・販売先・・・道の駅とわだ「とわだぴあ」、JA十和田おいらせファーマーズマーケット「かだあ〜れ」、地元飲食店等

就農してからの課題や想い

○取り組み

野菜が苦手な子ども達でも食べやすい野菜を作りたいという想いから、水耕栽培にチャレンジしました。卸業者を介して地元の学校給食に納品されることもあり、地元の子供達に食べてもらうことができています。経営理念は「地産地消で地域貢献」。

○就農してからの課題

冬場の作物を夏場と同じ品質で出荷したいのですが、日照時間が短いため生育に時間がかかり、夏場と同じ大きさになるまでに葉先が枯れてしまうなどの課題があります。また、時期や価格によっても売れ方が違うので、買う側が何を求めているのか情報収集が課題となっています。

○課題の解決方法

飲食店から、冬場にレタス類、ハーブ系のバジルやコリアンダーなど納品の要望があるため、試験的に栽培しています。



【あぐりとはっば】

ダジャレですが印象を高めるために、ビジュアルは『河童』で勝負！十和田市は水のイメージが強い土地。十和田湖、奥入瀬溪流、稲生川...そして水耕栽培！この青い河童のマークが目印です！

将来は法人化して地域の農地を引き受けることが目標

新規参入 就農2年目



取材日に納車されました

田邊 真太郎さん (平内町)

自己紹介

- 氏名・・・田邊 真太郎さん (31歳)
- 出身地・・・青森県平内町
- 経営の概要・・・個人経営 従事者2名
 - ・経営面積・・・水田5.6ha、畑10a
 - ビニールハウス3棟
 - 「産直 紫ぜん」経営
- ・作付品目・・・水稻、ピーマン、ミニトマト
など野菜20品目
- ・販売先・・・JA、「産直 紫ぜん」

就農のきっかけ

出身は、地元、平内町で、陸上自衛隊に12年間勤務していました。就農のきっかけは、帰省するたびに、故郷の水田や畑が荒れ耕作放棄地が増えていく様子を見て、寂しく残念な思いに駆られたこと、故郷で30haの稲作を営んでいる伯父の農作業を手伝っていた際に、高齢となり後継者がいない旨の相談を度々受けていたことから、この地で就農し、いずれは伯父が引き継いだ伝来の農地を受け継ぐことを決意しました。

○就農にあたっての課題

家族に、自衛隊を退職して農業を始めたいと相談した際に、自営となる農業は自衛隊と比べ、身分や収入が安定しないとのイメージがあることから、すぐには賛同を得ることができず、何度も話し合いを繰り返した結果、最後は家族が応援してくれることとなりました。

農機具や設備などは、自ら取得したトラクター等の他に、幸いにも伯父が所有している機械等を借りての営農活動ができていますが、新規就農者でゼロからスタートする方は、農地の確保だけでなく、農業機械などに必要な資金の確保に苦労すると思います。

○活用した就農支援策等

農業次世代人材投資資金（経営開始型）

就農してからの課題や想い

○取り組み

主食用米5.6ha、ピーマン4a、ミニトマトほか野菜10a（産直用）を栽培しています。出荷先は、主にJAですが、親戚から譲り受けた店舗「産直 紫ぜん」で、自らが栽培したお米や野菜、手作りのお弁当を販売しています。更に、お客様に平内町の農産物の魅力を知っていただくため、近隣農家の協力を得て、商品ラインナップの充実に取り組んでいます。

○就農してからの課題

来年、特別栽培米にチャレンジする予定でしたが、まだ、米の栽培でヒエ等の雑草対策がしっかりと取り組めていないため、基本的な防除技術を身につけてからの方が良いと考え、計画を先延ばしすることにしました。

○課題の解決方法

栽培方法などで困った時は、伯父や近隣農家、農協などからの指導を仰いでいます。現在、伯父の経営面積30haのうち、5.6haを借りていますが、将来は全ての面積を引き継ぐほか、法人化して地域の農地を引き受け、100haの経営規模を目指しています。

就農を考えている方へのメッセージ

就農当初は収入がないため、生活面でとても苦労しました。ある程度資金を準備することが必要です。農業は、天候に左右されるため苦労も多いですが、手間をかけた分、収穫できた時の喜びとお客様の笑顔という何ものにも代えがたい喜びがあります。



夜越山森林公園（サボテン園、洋ラン園）入口前にある「産直 紫ぜん」



季節の野菜・手作り弁当などを品揃え！

地域の方々の助けがあってこそ就農

新規参入 就農2年目



増山 由理さん (十和田市)

就農のきっかけ

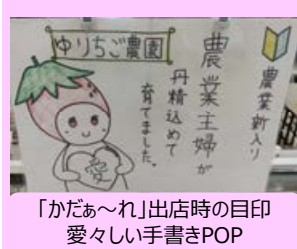
前職は大手小売店で正社員として働いていましたが、シフト制で子育ての時間が確保しづらいこともあり退職しました。その後、子育てが一段落し、新たに仕事を始めようと考えていた時に、周囲から農業を勧められ、未経験でしたが「何事も挑戦！」と思い農業を始めました。夏秋いちごを選んだ理由としては、十和田市でいちご農家が少なく、国産いちごが夏から秋にかけて品薄になり、本県では冷涼な気候を利用した夏秋いちごの栽培ができることをチャンスに捉え挑戦することにしました。

〇就農にあたっての課題

就農するにあたり、まずはいちご栽培のイメージをつかむため、市内のいちご農家で手伝いを始めると同時に、県民局や市役所に相談して研修先を探してもらいましたが、なかなか見つからず、最終的には手伝いをしていたいちご農家が研修生として受け入れてくれることとなり、ご縁があったのだと感じています。平成30年7月から2年間の研修予定でしたが、夏秋いちごの栽培スケジュールとして、いちごの苗を4月に準備して6月に定植作業を行う必要があるため、前倒して令和2年4月に就農しました。

〇活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金 (準備型)
- ・農業次世代人材投資資金 (経営開始)



「かだあ〜れ」出店時の目印
愛らしい手書きPOP

就農を考えている方へのメッセージ

普段から人との繋がりを大切にしています。イチゴ栽培を始めてからママ友とお茶をする時間が減りましたが、「とりあえずハウスにイチゴ食べに来て♪」と声をかけハウスで交流しています。また、資材屋さんなどにもいちごを差し入れすると喜んでもらえるので、些細な事ですが、周りの方への感謝の気持ちを忘れないことが地域で農業を続けられる秘訣だと思います。

自己紹介

- 〇氏名…増山 由理さん (45歳)
- 〇出身地…岩手県釜石市
- 〇経営の概要…個人経営 従事者1名
 - ・経営面積…ハウス3棟 (30坪、45坪、42.5坪) 新たに今年2棟新設、水田30a (大豆を作付)
 - ・栽培品目…夏秋いちご、大豆
 - ・販売先…十和田市内のスーパー3店舗、JA十和田おいらせファーマーズマーケット「かだあ〜れ」、ラ・フランス (製菓店)、十和田市アンブレイカブル (カフェ) 等

就農してからの課題や思い

〇取り組み

研修先の農地の一角をお借りして、ビニールハウス3棟でいちご栽培を始めました。コストを抑えるため、離農した農家から資材を譲ってもらい、ビニールハウスを組み立てました。販売面では少人数世帯のニーズを考え、ミニトマト用の少量容器を使用するなどの工夫をしています。また、規格外品は、カフェでいちごソースなどで利用いただいています。

〇就農してからの課題

夏場の品質維持が難しいと感じています。高温対策としてビニールハウス内に設置する高額な遮光シートの代わりに、安価な炭酸カルシウム剤を水に溶かしてビニールハウスの表面に塗布しましたが、猛暑により効果が不十分となり、品質が低下したため出荷できませんでした。

〇課題の解決方法

栽培技術については、近隣のいちご農家のほか、SNSのいちご農家だけのグループから、夏場の高温対策や病気の対処方法などを教えていただいています。現在は、ほどよい酸味が特徴のすずあかねを土耕栽培していますが、今後は、新たに設置したビニールハウス2棟で高設栽培を行い、大玉で果肉まで美しい鮮紅色の「赤い妖精」という新たな品種を取り組み、収益を上げることを目標としています。



↑【少人数世帯のニーズに合わせた少量パックも展開】

土作りにこだわったにんにく栽培

新規参入 就農5年目



吉本 寛之（六戸町）

就農のきっかけ

以前は、県内のエネルギー関連会社に勤務していました。東日本大震災後、「明日、自分の身や社会がどうなるかなんて誰にも予想できないし判らない」と思い続けてきたこともあり、自分のやりたいことをやろうと決断し、平成29年に退職しました。農業には以前から興味があり、家庭菜園でにんにくなどを栽培していました。同世代の地元農家と話をするたびに農業に挑戦したいとの思いが募り、知り合いの農家の手伝いをしながら野菜の栽培方法などを勉強し、平成30年に本格的に営農を開始しました。

〇就農にあたっての課題

主力であるにんにくを栽培するための機材、トラクターや植付機、テラー等は、退職金で購入しました。親元就農であれば、親から農業機械を借りることもできますが、非農家出身の場合は大きな初期投資が必要となるので、負担が大きく大変だと思います。

農地は、幸いに農地中間管理機構や農業委員会を通じて借りることができました。

〇活用した就農支援策等

令和元年度から農業次世代人材投資資金（経営開始型）の交付を受けており、今年度が最終年となります。

他の事業の活用は無く、必要な資金は貯蓄で何とか賄っています。

就農を考えている方へのメッセージ

どんな作物（作業）が自分に合っているのかは、やってみなければわかりません。私は、近隣の様々な農家の手伝いを通じて、作物によって、腰を曲げる作業が多いとか、力仕事が多いなどの特徴を知ることができました。自分に合った作物を探すことが農業を続けるうえで大切な要素の一つだと思います。農業では、栽培技術や販売先などで行き詰まる場合があります。行政機関やJAなどのほかに、相談できる人がいれば助かるので、地域における人とのつながりは、とても大切だと思います。

自己紹介

- 〇氏名…吉本 寛之さん（50歳）
- 〇出身地…青森県六戸町
- 〇経営の概要…個人経営
 - ・経営面積…畑1ha 水田0.5ha
 - ・作付品目…にんにく70a、にんじん30a、水稲50a
 - ・販売先…JA、十和田地方卸売市場

就農してからの課題や想い

〇取り組み

作物の主な出荷先はJAですが、にんにくは、3分の2を市場へ出荷しています。農業の基本は土作りだと考えており、米ぬかと堆肥に化学肥料を混ぜて発酵させた肥料を作り使用しています。化学肥料や農薬（殺菌剤・殺虫剤）は極力最小限の使用に留めたいと毎年試行錯誤しています。植物にとって良い土とは何か、どうすればより良い土壌環境になるのかを考え、良い土を維持する努力を重ねていきたいと思っています。

〇就農してからの課題

にんにく栽培が経営の中心となりますが、経営規模が小さいことから、面積拡大に取り組まない限り、これ以上、所得の増加が見込めないことや、他の野菜等を作付けできていないことです。

〇課題の解決方法

当町では、主力となる農業者の年齢は70代から80代となっており、後継者がなければ耕作放棄地となる農地が増加すると考えられます。所得の向上を図るためには、経営面積の拡大が必要であることから、今後、高齢などの理由により離農する農家から農地を借り受け、経営面積を拡大する、野菜の種類を増やし、価格変動リスクを分散するなど、安定した営農を目指していきたいと思っています。



【丁寧な作業でにんにくの根と上皮を除去し整えます】

会社員→地域おこし協力隊→ぶどう農家デビュー

新規参入 就農1年目



山田 俊さん（鶴田町）

就農のきっかけ

埼玉などで10年程のサラリーマン生活、変化が激しく、家族と過ごす時間もとりにくい仕事に身を置くと、今後ずっと働き続けられるのか漠然と不安に感じていました。そこで元々興味があった農業、できれば果樹農家を目指したいと考えて、果物の生産で知られる山梨や山形を検討していました。想いを抱きつつ地方暮らしを支援する「ふるさと回帰支援センター」を訪れると、妻の母の実家があり、毎年ねぶたを見に行くなど、「縁」を感じていた青森県の担当の方から鶴田町の地域おこし協力隊を勧められ、妻ともども令和3年6月末まで活動しました。

〇就農にあたっての課題

就農を目指し鶴田町の地域おこし協力隊として働くことに対して、両親は反対しました。安定したサラリーマンという地位を捨てることや、未経験の農家という職業に、両親も不安があったようです。今では、収穫時期になると、実家の名古屋から手伝いに来てくれる程、協力的になりました。

サラリーマン時代は、朝8時から夜10時まで働き、家族との時間が中々とれません。農業に転職した今は、園地で娘と過ごすなど、家族と一緒に時間が増え充実しています。

〇活用した就農支援策等

農業次世代人材投資資金（経営開始型）

就農を考えている方へのメッセージ

家探しには3年たった今現在でも悪戦苦闘しています。選果場所やスプレーヤー等の機材を置く場所がなく苦労しているので、移住する前に、やりたい品目を考えながら、十分検討して住まいを決めてください。

決意して心に決めた土地に至れば農業をやるしかない。なんとかなります。

自己紹介

- 〇氏名…山田 俊さん（35歳）
- 〇出身地…岐阜県可児市
- 〇経営の概要…個人経営
 - ・経営面積…56a
 - ・作付品目…ぶどう（スチューベン、オリンピック）
 - ・販売先…五所川原第一青果(株)

就農してからの課題や想い

〇取り組み

地域おこし協力隊のときは、農作業体験やインターネット交流サイトで地理的表示（GI）が認められた「つるたスチューベン」などに関する情報発信を行うとともに、3年間、町内の農家からぶどうの栽培技術を学びました。

経営するぶどう園は、引退した農家の方から購入したため、支柱などの施設をそのまま利用でき、経済的に助かりました。

また、軽トラックやスピードスプレーヤー等は、地域の農家の方から借りることができたため、初期投資もほとんどかかっていませんし、メンテナンスも機械の所有者が手伝ってくれるため、非常に助かっています。

地域の方々から応援していただけるのは、地域おこし協力隊で3年間活動したおかげだと思っています。

鶴田町は、新規就農者と栽培技術を教えてくれる農家とのマッチングを行っており、それぞれが良好な関係を築けています。自身が1ヶ月単位で様々な園地を回り、自分に合った農家の方から技術を教えてもらうことができました。

〇今後の展望

今の面積をキープしたまま、単価の高い品種（シャインマスカット等）に挑戦したいと思っています。また、スチューベンの加工品としてジュースや草木染めキットの作成を検討しています。



【丁寧な作業でりっぱなスチューベンができあがりました】

地の利を活かした経営戦略で、 ロットをまとめて安定した販路の確保

新規参入 就農1年目



中嶋 大樹さん（大鰐町）

就農のきっかけ

コロナ禍で社会・経済が混乱する中、自分の人生における時間の使い方について考えるようになりました。前職の物流関係の仕事は嫌いではありませんでしたが、コロナ禍で環境が変化し、勤務形態や対面でのやりとりが出来ないなど、いろいろな制約を受けるなか、自分自身仕事に対する「やりがい」が減って来ていると感じるようになりました。それと同時に、将来、転勤によって「地元」から離れ、子供が大きくなるまでの限りある家族の時間を奪われてしまうかもしれないという不安もありました。そんな中、目に留まったのが、畑で生き生きと農作業をしている幼なじみ（下山農園）の姿でした。終わりの見えないコロナ禍で、増大する不安がそう思わせたのかもしれませんが、家族や友人ともよく相談し、熟慮したうえで農業への道を選択しました。

〇就農にあたっての課題

初期投資を抑えることと安定的な販路を確保することが課題でした。これまで会社組織で働いていましたが、経営者視点で物事を考えることが欠けていたように思えます。資材を購入するにも、当然、経費になりますので、限られた予算で、いかに初期投資を抑えるかということに重点を置きました。天候に左右される農業ですが、販路についても、せっかく手をかけて育てた農産物を販売することが出来なければ無駄になってしまうので、少しでも不確実性を減らすために「安定した販路」の確保は必須条件でした。

* 香りの強い根付きパクチー

〇活用した就農支援策等

・農業次世代人材投資資金（開始型）



自己紹介

- 〇氏名・・・中嶋 大樹さん（37歳）
- 〇出身地・・・青森県大鰐町
- 〇経営の概要・・・個人経営
 - ・経営面積・・・ 15a
 - ・作付品目・・・ピーマン、パクチー、ハーブ
 - ・販売先・・・首都圏（秘密）、農協、市場

就農してからの課題や想い

〇取り組み

私の農業に対するイメージは、農産物価格の決定権は生産者にはなく、買い手が決めた価格で買い取られ、殆ど稼げない業種だと思っていました。ところが下山農園の取組は、地域で組合を作り「独自販路」へ大ロットで出荷することにより、簡易包装による作業効率の向上に加え、事前に契約単価を設定するため、収入をある程度計算することができるというメリットがあり、価格変動リスクがありません。露地栽培のピーマン、パクチー、ハーブを選択した理由は、初期投資を抑えられることと、青森ならではの冷涼な気候を活かした栽培で、夏季に首都圏に向けて安定した供給が出来るからです。他の産地での生産が少ないうちに、いかに短期間で集中して首都圏に農産物を供給することが出来るかが鍵となります。

〇就農してからの課題

露地栽培なので、雨の日の作業が出来ず、アルバイトの雇用は無駄が生じて機会損失となるため、投資を抑えつつ、雨天でも作業が出来る環境を整備して、雇用ロスを生まないことが課題です。

〇課題の解決方法

現在も雨よけ時のアイデアを探しています。並行して、天候による作業実施の判断基準を設けて雇用の在り方について考えたいと思います。

就農を考えている方へのメッセージ

まずはアルバイトからでも良いので、農業にチャレンジしてみましょう。一生懸命取り組んでいれば、必ずまわりが助けてくれます。とりわけ組合のみんなには助けられっぱなしですが、大鰐町役場や農業委員会の方々も親身になって話を聞いてくれます。次は私が就農を考えている人に手を差し伸べてあげられるような農家になりたいと思います。

野菜の成長が元気のもと

親元就農 5 年目



相内 智明さん（五戸町）

就農のきっかけ

高校卒業後、五戸町の民間企業（建設・林業関係）に就職し、24年間一度も転職することなく勤めてきましたが、親が病気になったことをきっかけに、実家の将来と親が守り営み続けてきた農地を廃れさせたくないという気持ちが沸き上がりました。

家族のことを思い、随分悩みましたが、会社勤めをしながら農業と両立することは難しいと考え、今後は農業一本で生計を立てていこうと決意し、就農を決断しました。

親元就農で農業次世代人材投資事業を活用する場合「新規作物の導入」が要件となっているため、親とは違う作物であるにんにく、丸イモを中心に経営を進めていこうと計画し栽培を始めました。

〇就農に当たっての課題

大切な家族を養っていくため、作物の選定には慎重を期しましたが、最後は、周辺ににんにく農家が多く学びの場や環境が整っている点、県内有数の産地、五戸町の丸イモであれば、農協に相談し易いという点から栽培する作物を決定しました。

〇活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業（開始型）



【出荷前のにんにく】
まごころ込めて
栽培しています！

【収穫後の作業の様子】
乾燥させたにんにくの根切りと
上皮むきをひとつひとつ丁寧に
手作業で行っています。



自己紹介

- 〇氏名・・・相内 智明さん（48歳）
- 〇出身地・・・青森県五戸町
- 〇経営の概要・・・個人経営
 - ・経営面積・・・65a
（にんにく55a、丸イモ10a）
 - ・作付品目・・・にんにく、丸イモ
 - ・販売先・・・にんにく（民間業者とJAに出荷）
丸イモ（全量JA出荷）

就農してからの課題や想い

〇取り組み

就農1年目は、主品目ににんにくの種作りのため5aの作付けから開始し、毎年徐々に作付面積を広げ、今年は55aまで拡大しています。就農2、3年目には、ピーマン作りに挑戦しましたが収穫時期とにんにくの土作りの時期が重なり、並行した作業に追われて大変でした。その経験から、4年目からは計画的な作業ができるように、にんにくと丸イモだけに専念する方針に切り替えました。

にんにくの種子は1品種に限定し、小さい種子は作付けしないことを徹底することが、良品質のにんにくの収穫に繋がっています。

将来的に、にんにくは1haに規模拡大したいと考えています。

〇就農してからの課題

面積拡大した今の規模であれば、植付け・収穫時期に最低でも5名の労働力が必要となります。周辺もにんにく農家であるため、繁忙期ともなれば、地域内での労働力の奪い合いとなり、人材の確保に苦労しています。

また、就農してすぐはにんにくの収穫機を所有しておらず、借りるにしても、周りの農家の収穫が終わった後となるため、本当に使いたいときに使えない不便さがありました。

〇課題の解決方法

労働力の確保については、将来的に規模拡大する前にJAの無料職業相談窓口で相談する予定です。

収穫機は中古品を購入し、計画的に収穫作業が行えるように備えました。購入費用は掛かりましたが、人力で収穫したときに、手にマメができるなどの痛い思いをしたため、今は購入して良かったと思います。

就農を考えている方へのメッセージ

にんにくの栽培方法は、地域の農家によっても違いがあるため、先輩農家とコミュニケーションをとりながら、自分の栽培技術に落とし込むことが大事だと思っています。

農業の可能性は無限大 新たな販路に向けて有機栽培にも挑戦

新規参入 就農3年目



上沢 洋貴さん（田子町）

就農のきっかけ

父は葉たばこを生産しており、幼い頃から手伝いをしていたので、将来は親の農業を継ぐつもりで青森県営農高等学校で農業の基礎を学んできました。卒業後、すぐに就農する予定でしたが、「一度は会社員の経験をした方が良い」と父に勧められ、農業共済に勤めました。職員時代の休日は、父の農作業を手伝っていましたが、続けているうちに、自分には身体を動かした働き方が合っていると感じ、「やっぱり農業がやりたい」という気持ちが次第に強くなり、26才で就農しました。

○就農にあたっての課題

後継しようと思っていた葉たばこ生産では給料を払ってあげられないと父から言われ、親から独立し経営者となる不安や、農業次世代人材投資事業（開始型）を活用するためには、親と異なる作物を生産しなくてはならないという要件があるため、作物選定に悩みました。

栽培のノウハウや専用機械はありませんでしたが、生まれ育った田子町の特産にんにくであれば、生産情報や、資材などの環境が整っているとの思いからこれに決めて挑戦することにしました。

○活用した就農支援策等

農業次世代人材投資事業（開始型）



【上沢さんのにんにく圃場】



【スナップエンドウ栽培の様子】



【むきにんにく】
にんにくの皮むきは手作業です。

自己紹介

- 氏名・・・上沢 洋貴さん（30歳）
- 出身地・・・青森県田子町
- 経営の概要・・・個人経営
 - ・経営面積・・・60a（にんにく55a（うち5a有機栽培）、スナップエンドウ5a）
 - ・作作品目・・・にんにく、スナップエンドウ
 - ・販売先・・・田子町ガーリックセンター、JA出荷（スナップエンドウのみ）、ECサイト（予定）

就農してからの課題や想い

○取り組み

にんにくは、R2年産までは次年産種子を確保するための作付けに追われていましたが、R3年産からは販売分に力を注げるようになりました。現在は、田子町の新品種「美六姫（みろくひめ）」を栽培しています。

今年、地元で起業した友人が東京のオーガニックレストランと繋がりがあり、「有機栽培のにんにくが欲しい」との要望があり、この機会を掴むべくR4年産に向けて一部有機にんにくの試験栽培を始めました。また、有機にんにくの輸出についても地域から声がかかっており、これからの販路展開や様々な地域・業種の人々との新たなふれあいの可能性にワクワクしています。

○就農してからの課題

にんにくを1ha程度まで規模拡大したいと考えていますが、種子の植付けや収穫作業に係る労働力不足を考えなければなりません。短期間・短時間な不規則な雇用に応じてくれる方の確保は難しいと感じています。できれば経験者が望ましいですが、田子町はにんにく産地であるため、同時期に労働力の引き合いが強くなり、作業してくれる方を探すことに一苦労しそうです。

また、有機栽培の面積拡大は地域からの理解を得ることが課題だと思っています。

○課題の解決方法

JA設置の無料職業相談窓口で労働力不足を相談するとともに、農福連携等の新たな労働力も視野にいたいと思います。有機栽培を地域での取り組みとすべく、栽培・販売での情報を関係者等から収集していきたいと思います。

就農を考えている方へのメッセージ

自分は会社勤務を経験しましたが、やっぱり農業が好きで、農業で生計を立てていく決意で就農しました。地域に定着し、良いときも悪いときも農業と向き合って生きていかなければならない強い決意が必要です。

町に活気を取り戻そう！就農しながら地域づくり

新規参入 就農3年目



佐藤 岳広さん、美穂子さん（五戸町）

就農のきっかけ

関東でSEとして働いていましたが、元々、農業には関心があり、いつか父の実家である五戸町に移住して就農しようと考えていました。子供が生まれ、移住のタイミングを見計らっていたところ、かつて祖父母が住んでいた家屋や農地が荒廃していく姿を目の当たりにして、迷っている暇はないと思い、賃貸マンションの更新を機に移住を決意しました。

その後、家屋の一部を改装し、妻の想いを込めたカフェと農家民宿「音水小屋」を開業し、自家栽培と地場産の食材を使用して営んでいます。この他、倉石にある築200年の古民家「ふるさとの家」を仲間と一緒に管理運営して、イベントなどで活用しています。



〇就農に当たっての課題

私たちの場合は、就農以来、農的なことよりは、「核家族で地方に暮らすこと」の難しさが一番の課題でした。こうしたなかでも、とにかく好きなことを楽しもうという気持ちを大切に毎日を送ってきました。

〇活用した就農支援策等

- ・青年就農給付金（準備型）
- ・農業次世代人材投資資金（開始型）

就農を考えている方へのメッセージ

就農前に、全く違う仕事に就いてみたり、いろんな地域をまわってみてください。経験や知識、人脈など様々なものが得られますし、人としての幅や奥行きも出てくるでしょう。また、自分を客観的に見る機会も得られると思います。その経験は、将来、就農のビジョン、問題解決、地域での人との関わりなど多くの事に生きてくると思います。

自己紹介

- 〇氏名・・・佐藤岳広さん（40歳）
佐藤美穂子さん（39歳）
- 〇出身地・・・埼玉県（夫）大阪府（妻）
- 〇経営の概要・・・個人経営
 - ・経営面積・・・60a
 - ・作付品目・・・水稻、野菜
 - ・販売先・・・飲食店、個人、イベント

就農してからの課題や想い

〇取り組み

農薬、化学肥料に加え、動物性堆肥も不使用、不耕起栽培で、お米と少量多品目の野菜を栽培しています。収穫した農産物は農家民宿で宿泊客に振る舞うほか、飲食店や個人宅配などの販売をしています。

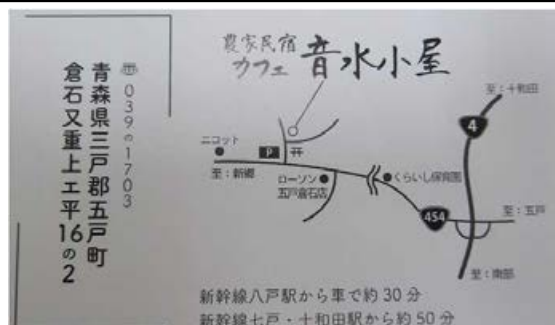
昨今、環境問題を契機として有機農業が脚光を浴びていますが、この機会をチャンスと捉え、将来的には有機農業に取り組む生産者の仲間と五戸町を有機農業の町として、活気のある町にしていきたいと考えています。

〇就農してからの課題

子供はまだ小さいうに近くに頼れる両親や友人がいないこと、加えて、地域や自治会の役回りが多くて、転居したばかりの頃は自分たちの時間を持つことが難しくとても苦労しました。更にコロナ禍での農家民宿の経営や技術的な栽培方法など、課題は枚挙にいとまがありません。

〇課題の解決方法

五戸町には有機農業の先駆者である、はる農園のほか、ここで研修を受けた生産者が多くいます。私自身、就農前の2年間は研修生として栽培方法から販売先の開拓に至るまでを学びましたが、今でも栽培に関して疑問がある場合は、はる農園をはじめとした有機農業に取り組む仲間と相談に乗ってもらっています。



夢は畑がスーパーマーケット

新規参入 就農 1 年目



小田島 亜矢子さん（青森市）

就農のきっかけ

前職は、派遣会社で営業担当をしていました。元々、畑仕事が好きで家庭菜園を楽しんでいましたが、農作業の時間を増やしたいと思い、一昨年に正社員からパートに変更していただきました。それからは、週2、3日の勤務と農業のダブルワークをしばらく続けていましたが、本格的に農業に打ち込みたくなり、昨年11月に派遣会社を退職し、農業一本に人生を捧げる覚悟を決め、始めるからには化学肥料や化学農薬を使わずに作りたいと思い、有機栽培に取り組むことにしました。

〇就農に当たっての課題

有機栽培の知識がほとんど無かったため、最初は、本やYouTubeから知識を取り入れて独学で進めていましたが、最近は、有機栽培に取り組む仲間も増えたことから、お互いに情報交換をしながら進めています。

今年、青森市農業振興センターで研修を受け、講師から野菜の病気等について教えていただき、とても参考になりました。有機栽培は、雑草対策や病害虫対策で悩むことが多いので、もっと専門的な知識を吸収できる環境を整えていただきたいと願っています。



【Vege-marketの様子】

※ NPO法人シーズネットワークが運営するマルシェ
※ 小田島さんはNPO法人シーズネットワークに所属しています。



【おだしま農園の新鮮な野菜】

小田島さんの活動の様子はこちらから→Instagram: @odashimanouen

自己紹介

- 氏名・・・小田島 亜矢子さん（47歳）
- 出身地・・・青森県五所川原市
- 経営の概要・・・個人経営
 - ・経営面積・・・ビニールハウス 1棟（60坪）、畑20a
 - ・作付品目・・・約20品目（ミニトマト、きゅうり、菊芋、ピーマン、キャベツ、ほうれん草、ブロッコリーなど）
 - ・販売先・・・青森県民生協（新城店、コスモス館、アカシア館）自然食品の店あおぞら、オーガニックハンドクラブ、Vege-market（7月～10月）

就農してからの課題や想い

〇取り組み

今年7月から10月の毎週日曜日に、有機栽培仲間 に声を掛けて、青森駅近くでマルシェ「Vege-market（略称「べじま」）」を開き、有機野菜を販売しました。対面販売の利点を活かし、野菜の特徴や調理方法を紹介するなど、交流を楽しむことができました。お客様からは「有機野菜を販売しているところが少ないので嬉しい」「珍しい野菜だから試しに食べてみる」など、嬉しい声もいただいています。

〇就農してからの課題

現在の農地は水田に囲まれている場所にあるため、米農家の方には、農薬散布前に声を掛けてもらうようお願いをしています。散布前にビニールハウスの窓を閉め、農薬が入り込むことを未然に防ぐ対策をしながら有機に取り組んでいます。

今後は畑に植えられたままの野菜に値札を付けて、お客様が欲しい野菜を自分で収穫して購入する仕組みを考えています。「畑がスーパーマーケット」になるイメージで、お客様が直接畑に足を運び、子ども達は農業に触れ楽しみながら収穫体験ができ、新鮮な野菜が食べられるといった「食育」にも繋がる形を想い描いています。

〇課題の解決方法

将来的には水田から離れたところに自分の農地を探し法人化を目指したいと思っています。

私が取り組んでいる有機農業を広めるためには、実際お客様に食べていただき、商品の良さを知ってもらうことが大事だと思っています。他県では、学校給食の食材として活用しているところもあるので、地元の学校給食でも有機野菜が活用される未来に期待を膨らませています。

就農を考えている方へのメッセージ

私のコンセプトは「楽しみながら仕事をする」です。最初は大変な面もありますが、一生懸命育てた野菜が収穫できて売れば、大きな達成感や喜びとなります。栽培方法や販売先など、仲間からのアドバイスも励みになるので、人とのつながりはとても大事だと思っています。

自分に見合ったプランで就農準備

就農準備型 1年目



斉宮 大さんと知佳さん（弘前市）

就農を目指したきっかけ

サラリーマン時代、東京から転勤となった青森で素敵な女性との出会いがありました。それが妻です。妻の実家は弘前市で、りんごの栽培（3ha）を営んでおり、休日には二人で農作業に親しんだものです。再びの転勤で東京に戻るときには、妻がついてきてくれました。当時は、環境に馴染めずにいる妻に、随分と気苦労を掛けたことが思い出されます。

そんなとき、東京で開催されていた「就農相談会（新・農業人フェア）」に目が留まり、青森での農作業を懐かしく感じ参加しました。会場では、弘前市やあおもり農業支援センターの職員の方々が丁寧に対応してくれましたし、青天農場での農作業研修の案内を受け、そちらにも参加させていただきました。

サラリーマン生活を捨て、農業で生計を立てていくことにいくばくかの不安はありましたが、それ以上に妻とともに親しんだ「農作業が楽しい」という気持ちの方が上回ったので、自分には農業が向いていると思い就農を決意しました。

○就農準備期間の課題

新規就農の手続きを行う際、県民局や市役所それぞれに窓口があり、どの窓口でどの内容を相談していいのかわかりづらいと感じます。また、就農に必要な提出書類を準備し、記入内容を確認していきますが、例えば「認定新規農業者は農地を保有していないといけない」など、農業者が当たり前とするような知識を知らず、手続きが難航する場面もありました。これからは、農業を営む上で必要な知識を少しずつ覚えていきたいと思っています。

○活用した支援事業等

- ・農業次世代人材投資事業（準備型：1年目）

自己紹介

- 氏名…斉宮 大さん（30歳）
斉宮 知佳さん（35歳）
- 出身地…山口県（夫）弘前市（妻）
- 予定している経営概要
（令和4年4月開始予定）
 - ・経営面積…ビニールハウス（330㎡）2棟
 - ・栽培品目…ミニトマト
 - ・販売先…JA出荷、インターネット販売

就農予定の経営スタイル

○現在の取り組み

令和3年4月からミニトマト農家での研修を開始しました。研修先では、ベテラン農家から栽培技術だけでなく、農家として生活していく上での苦労話などを聞くことができるので、就農後のイメージ造りに役立てさせていただいています。

○予定の経営スタイルについて

妻の実家の隣接地がりんご園になっています。その一面のりんごの樹を伐採し、令和4年4月から、ミニトマト栽培用のビニールハウス（330㎡）2棟の新設を計画しています。資材費用などの初期投資は日本政策金融公庫の青年等就農資金を利用する予定です。

研修先では、ビニールハウス3棟でミニトマトを栽培しており、それが私たちが目指す経営スタイルです。経営が軌道に乗ってきたら、今の計画より更に1棟増設した3棟のハウスで栽培していきたいと思っています。はじめは夫婦二人三脚での農作業となりますが、収穫期などの繁忙期には臨時の人手も雇い入れて作業していければと考えています。

就農を考えている方へのメッセージ

私たちは会社勤めの時代から、就農に向けた計画を立てて、就農資金を貯蓄してきました。就農するにあたって様々な支援事業がありますが、その全ての支援を活用出来るとは限りません。就農してみたいと考えたら、まずはしっかりと就農計画を立てて、就農に必要な具体的な金額を計算してみることが大事だと思います。自分達も研修先から、お金が無いと生計も農業も成り立たないということを日々教えてもらっています。

取材にご協力いただいた方々の取組地域



新規就農に関する情報は、
農林水産省及び東北農政局のホームページでご覧いただけます。

- ・ 農林水産省ホームページURL

<https://www.maff.go.jp/>

- ・ 新規就農促進 <農林水産省ホームページ内 URL>

https://www.maff.go.jp/j/new_farmer/index.html

- ・ 施策情報（新規就農者への支援等）
- ・ 参考情報（新規就農に関する資料等）

- ・ あふてらす

農林漁業はじめるサイト

<農林水産省ホームページ内 URL>

https://www.maff.go.jp/j/aff_terrace/

「あふてらす」は、農業に興味がある方、これからはじめたい方向けの情報を発信しています。

- ・ MAFFアプリ（マフアプリ）

農業者と農林水産省をつなぐ新たなコミュニケーションツール



- ・ 東北農政局ホームページURL

<http://www.maff.go.jp/tohoku>



編集後記

「農業はじめました！～新規就農者の取組紹介～」をご覧くださいありがとうございます。この事例集は、東北農政局青森県拠点の職員が、新規就農者の皆様の田んぼや畑に直接お邪魔して取材を行い、皆様から伺った貴重なご意見を取りまとめたものです。

これまでも、農業に興味をお持ちの方や新たに農業を始めたいといった方向けのパンフレットや情報が、国・県・市町村等の関係機関から発信されているところですが、東北農政局青森県拠点では、既に就農している方にスポットを当て、就農のきっかけや課題、解決策、例えば、農地や機械・設備はどうやって確保できたのかなど、実際の体験談をお聞きするとともに、今後、就農を考えている方へのアドバイザーとしての視点でメッセージもいただいております。

取材にご協力いただいた皆様からは、紙面では表しきれないほどのご苦労や農業に取り組む熱意をお聞きしましたが、スペースの関係上、いただいた内容をやむを得ず凝縮させていただきました。

今回この事例集を手にとった方の中には、農業に関心があり、既に就農を考えている方もいらっしゃるかもしれません。そのような方々の参考になれば幸いです。また、今回取材にご協力いただいた皆様が日々努力されている取り組みを、一人でも多くの方に知っていただきたいと思っております。

お忙しい中、取材にご協力いただいた新規就農者の皆様をはじめ、新規就農者をご紹介いただいた関係者の皆様、大変ありがとうございました。紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

東北農政局青森県拠点では、農業現場の生の声を聞き、いろいろな取り組みを幅広く皆様にご紹介していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

スタッフ一同



編集発行：東北農政局青森県拠点

電 話：017-775-2151

F A X：017-723-3840

〒030-0861 青森県青森市長島一丁目3-25

（青森法務合同庁舎4階）

**問い合わせ先 地方参事官室 藤館、本堂、鈴木、
相馬、大坂、森、新山**